

| | | | | | | | |
|-----|--------------|--------|--|----|-----|-------------------------|-------------|
| 専攻名 | 両専攻共通 | 必修・選択 | 選択 | 単位 | 2 | 学期 | 3Q,4Q(集中講義) |
| 科目群 | 産業技術研究科共通科目群 | 科目名 | ビジネスアプリケーション特別演習 | | 教員名 | 吉岡 弘隆 永瀬 美穂 土屋 陽介 | |
| | | (英文表記) | Advanced Exercises: Business Application | | | | |

| | | | |
|--------------|--|-----------------|---------|
| 概要 | <p>本講義は平成 24 年度から開始された文科省の「分野・地域を超えた実践的情報教育協働ネットワーク」(enPiT: Education Network for Practical Information Technology) のビジネスアプリケーション分野の学習の一環として、PBL 方式で行われる、学生主導のプロジェクト演習である。演習は楽天の API を利用したビジネスアプリケーションをアジャイル手法で開発するスクラムチームと、海外の要求に対してグローバルな提案・開発を行うグローバルチームに分けて実施される。</p> <p>スクラムチームは、リーンスタートアップ手法およびアジャイル開発手法である Scrum を使って、Web アプリケーション分野の新しい製品やサービスの企画立案から、プロトタイプ開発によるアーキテクチャベースラインの確立、インクリメンタルな機能強化開発、運用・保守までを実践する。具体的なテーマとしては、楽天株式会社 Web アプリケーション開発用の API を利用し、実用レベルの製品・サービスの開発と運用を経験する。</p> <p>一方、グローバルなビジネスへの対応力も求められ、海外へのビジネスアプリケーションの提案力を高めることも重要なテーマである。そこで、ベトナム、ブルネイ、ニュージーランドの大学と協力しながら、ロボットとインターネットを活用したサービスアプリケーションを開発する。ミニ PBL では、遠隔会議によりそれぞれの国の文化や特徴を生かしたロボットサービスのアイデアを考案し、要求仕様書としてまとめる。分散 PBL では、その要求仕様書に基づき実機(ロボット)を使ったアプリケーション開発を協同で行う。</p> <p>各プロジェクトの内容は、別途配布する「enPiT 分散 PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p> | | |
| 目的・狙い | <p>Scrum を理解し、モダンな Web アプリケーション開発のための基盤を活用して、価値の高いソフトウェア開発をチームワークで行うことを目的とする。受講者はこの PBL を通じて、楽天 API を利用した Web アプリケーションを作成し、成果報告会で発表する。</p> <p>また、グローバルチームは、様々な国の文化や特徴を生かした Web サービスやロボットサービスを開発する。国際的な開発プロジェクトを体験することで、世界を見据えたグローバル人材の育成を目指す。</p> <p>修得できるコンピテンシー:</p> <p>(B1) コミュニケーション力(レベル4) システム提案・ネゴシエーション・説得、ドキュメンテーション (B2) 継続的学修と研究の能力(レベル4) 革新的概念・発想、ニーズ・社会的・マーケット的視点、問題解決 (B3) チーム活動(レベル4) リーダーシップ・マネジメント、ファシリテーション・調整</p> | | |
| 前提知識(履修条件) | <p>スクラムチーム、グローバルチームともに、ソフトウェア開発プロジェクトに参画した経験があることが望ましい。チームワークによるソフトウェア開発に対する熱意や、グローバルなより良いプロジェクトマネジメント手法に対する期待がある人をとくに歓迎する。</p> <p>enPiT プログラムの受講生は「アジャイル開発手法特論」(集中講義)の受講を必修とする。</p> | | |
| 到達目標 | 上位到達目標 | | |
| | 「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照。 | | |
| 到達目標 | 最低到達目標 | | |
| | 「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照。 | | |
| 授業の形態 | 「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照。 | | |
| 授業外の学習 | <p>原則として週に 9 時間のチーム活動以外に 9 時間の時間外作業を 30 週間継続すること。</p> <p>時間外においては、チーム活動のために必要な知識の事前学習や、メンバーに分担された活動中の課題の調査などを行う。</p> | | |
| 成績評価 | <p>次のポイントで評価する(合計 100 点満点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すすめ方 各 4 点×10 回=40 点 ・ 成果発表会(プレゼンテーション、成果物) 60 点 <p>成績評価方法の詳細については、プロジェクトごとに定める「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照のこと</p> | | |
| 教科書・教材 | 「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照。 | | |
| 参考図書 | 「enPiT PBL プロジェクト説明書」を参照。 | | |
| 獲得可能なコンピテンシー | | 獲得可能度合(◎ ○ △ -) | 獲得可能な内容 |
| メ タ | コミュニケーション能力 | ◎ | |
| | 継続的学修と研究の能力 | ◎ | |
| | チーム活動 | ◎ | |
| コ ア | システム提案・ネゴシエーション・説得 | ◎ | |
| | ドキュメンテーション | ◎ | |
| | 革新的概念・発想 | ◎ | |
| | ニーズ・社会的・マーケット的視点 | ◎ | |
| | 問題解決 | ◎ | |
| | リーダーシップ・マネジメント | ◎ | |
| | ファシリテーション・調整 | ◎ | |